



美幌町

BIHORO

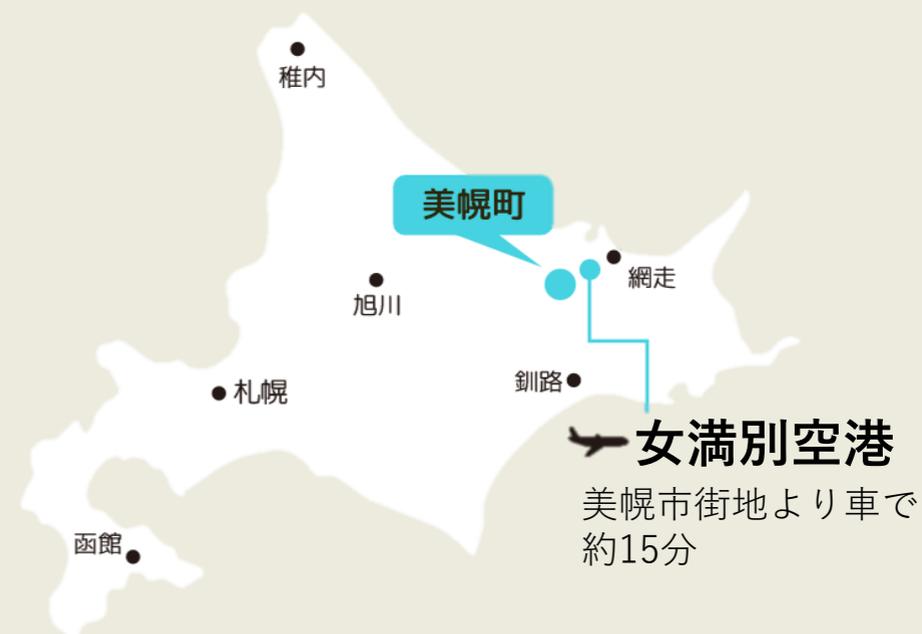
Since 1923

美幌町の概要

- 人口・世帯数：17,921人・9,363世帯
- 基幹産業：農業（小麦、甜菜、玉ねぎ）
- 町の特徴
 - ・人口の約8割がまちの中心から半径2km圏内に住んでいるコンパクトシティ。
 - ・オホーツクの空の玄関、女満別空港まで市街地から車で15分。

■企業に期待したいこと

太陽光を主力とした「再エネ導入波及拠点」の整備を目指しているが、ネットワークづくり等のノウハウが無い
ため、仕組みを提供いただきたい。



町内での脱炭素ドミノ (再エネ導入波及3拠点から発信する脱炭素)

3つの「再エネ導入波及拠点」整備を目指しており、各エリア特性に応じた再エネを積極的に導入し、地域課題の同時解決を進めたい。

【拠点①】

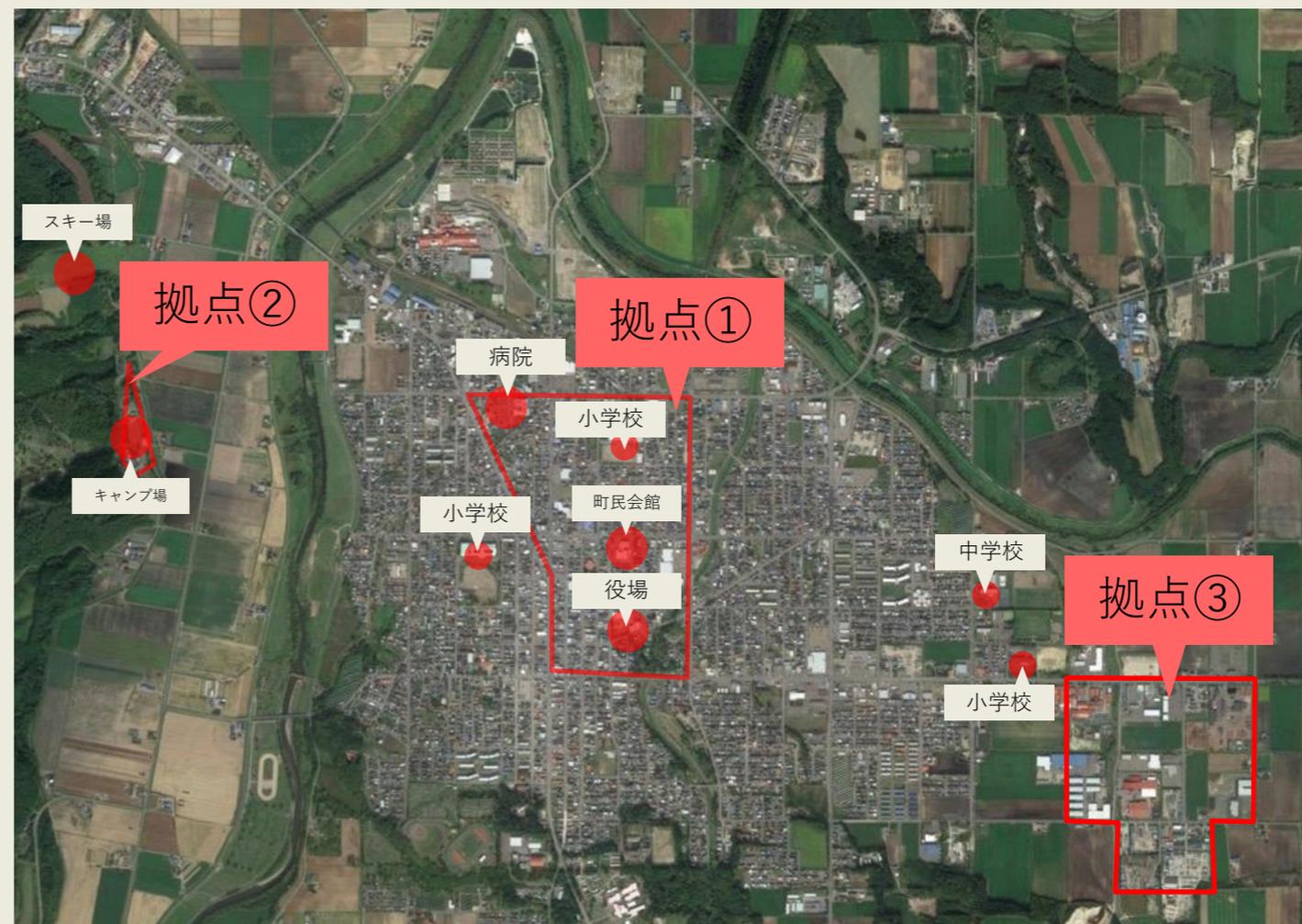
ZEB庁舎を中心とする「公共施設群」
(中心市街地)

【拠点②】

ワーキングスペース「KITEN」を有する
「美幌みどりの村森林公園キャンプ場」

【拠点③】

RE100を実現する「稲美工業団地」



ZEB庁舎を中心とする公共施設群

- ・各公共施設へPPA等により『太陽光発電・蓄電池』を導入したい
- ・施設間マイクログリッドを形成し、レジリエンス強化を目指す

- コンパクトシティとマイクログリッドを組み合わせ、災害に強く、脱炭素化と地域経済の活性化を目指すまちづくり
- 立地適正化計画と連携。高齢者の徒歩500m圏内に都市機能誘導区域を設定することで、ウォーカブルなまちづくりを推進。当エリアを中心とした、更なるコンパクトシティ化

■課題

- ・太陽光発電設備の設置は既存公共施設屋根への想定
- ・各公共施設は離れているため、ネットワーク形成手法

■民間企業に期待したいこと

- ・マイクログリッド形成以外のレジリエンス強化手法を相談したい (ex V2HやVPP)
- ・マイクログリッド形成の仕組みを提供いただきたい
- ・PPA事業者を募集したい



みどりの村森林公園キャンプ場

ワーキングスペース「KITEN」がR5.4キャンプ場内にオープン
キャンプ場全体を『太陽光発電』『木質バイオマス』で脱炭素化

- 「KITEN」をワーキングスペースとしてだけでなく、地域の中と外が混じり合い交流が生まれるスペースとして、新しいコトが進んでいく場所、企業の課題解決の場として利用可能。
- キャンプ場内にある「エコハウス」「博物館」「宿泊施設グリーンビレッジ」などと連携。観光事業にワーケーションも加え、脱炭素型観光で後押し。

■課題

- ・脱炭素×キャンプ場の事業化意義が弱い
- ・付近は土地がたくさんあるが、太陽光設備の野立ては景観上から難しい。

■民間企業に期待したいこと

- ・脱炭素×観光のアイデアを提供いただきたい
- ・キャンプ場を脱炭素化する仕組みを提供いただきたい



RE100を実現する稲美工業団地

特別工業地域「稲美工業団地」を『太陽光発電』『木質バイオマス』でマイクログリッド活用を見込む。

100%再エネによる電源供給ができる企業誘致エリアとすることで、雇用創出や地域経済に好循環を生み出すことを目指す。

- 域外流出している木質チップを活用
- 企業誘致を行う同エリア内に木質バイオマス発電等を導入
- エリア内の食品加工工場等へはクリーンエネルギーで製造されている付加価値をプラスなど



■課題

- ・安定したエネルギーの供給体制
- ・再エネポテンシャルは調査中だが、太陽光・木質バイオマスに限られている

■民間企業に期待したいこと

- ・太陽光、木質バイオマス以外の有効な再エネを提案いただきたい
- ・工業団地内の各企業をマイクログリッド等につなげるための手法を提供いただきたい

【エリア内立地企業】

- 食品加工業
- 農産物集荷・保管・選別業
- 窯業
- 斎場
- 森林組合